

# photopos 49

2017.12.20 ~ 2018.1.13

【神秘学ポエジー～風遊戯 第98集】

photo ヴァージョン

photopos1201-1225

神秘学遊戯団

# photopos-1201

2017.12.20



新たな言葉のために  
いまはただ歩いていよう  
静かな光の注ぐなか  
波の声を聞きながら

新たな時間のために  
じっと耳をすましていよう  
穏やかな風の吹くなかを  
心の時を刻みながら

新たな神話のために  
古い物語は脱ぎ捨てよう  
永遠から届く声にあわせ  
祈りの歌を捧げながら



※愛媛県松山市・重信川河口にて

# photopos-1202

2017.12.21



その先は見えない  
魂の翼が必要だ

光なきとき  
みずからが光となるために

魂が棄てられて久しい  
いまや心さえも棄てられようとしている

はるか遠くまで見えるレンズでも  
どこまでも小さなものが見えるレンズでも  
魂を見ることはできない

見えないものを見る魂の力を  
彼方へと誘う翼を持つことだ

見えないあなたを見るために  
見えないわたしを見るために



※愛媛県松山市・重信川河口にて

# photopos-1203

2017.12.22



潮は引き  
潮は満ち

州は現れ  
州は消え

陽は昇り  
陽は沈み

雲は湧き  
雲は消え

風は吹き  
風は凪ぎ

季は移り  
季は巡り

鳥は移り  
鳥は歌い

我は歩き  
我は迷い

心は引き  
心は満ち

夢は現れ  
夢は消え



※愛媛県松山市・重信川河口にて

# photopos-1204

2017.12.23



ぼくはなぜぼくなんだろう  
ぼくでなくたっていいのに  
なぜぼくはきみじゃないんだろう

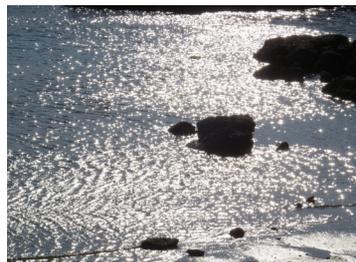
海はなぜ海なんだろう  
海でなくたっていいのに  
なぜ海は空じゃないんだろう

岩はなぜ岩なんだろう  
岩でなくなってもいいのに  
なぜ岩は魚じゃないんだろう

ひょっとしたら宇宙は  
ぼくや海や岩の目で  
自分という宇宙を  
見たがっているのかもしれない

だからぼくはぼくで  
海は海で  
岩は岩なんだろう

けれどぼくは魔法を使って  
きみになることだってできるかもしれないんだ  
ぼくがきみになれるほど  
きみを愛することができたときには



※愛媛県松山市大浦の海岸にて

# photopos-1205

2017.12.24



夕暮れの  
静かな光のように

やさしい心が  
遠くから帰ってきたら

その心を映す  
鏡のような水になって

ゆっくりゆっくり  
ゆれていればいい

はじまりとおわりが  
むすばれるように

めぐりくる時を  
生きようとするときは

その時をむすぶ  
永遠のかたちになって

いつまでもいつまでも  
夢のなかをゆくがいい



※愛媛県松山市・重信川河口にて

# photopos-1206

2017.12.25



光を求めるならば  
みずからに光を求めよ  
その光こそが  
みずからを照らすのだから

言葉を求めるならば  
みずからに言葉を求めよ  
その言葉のなかに  
みずからの光も闇もあるのだから

愛を求めるならば  
みずからに愛を求めよ  
その愛こそが  
ひとをも生かすのだから

永遠を求めるならば  
みずからに永遠を求めよ  
その永遠こそが  
時を深めてゆくのだから



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

# photopos-1207

2017.12.26



かしこげなものはいねがー  
無知を知らぬ者はいねがー

そんなやつあー  
異形のほげたらぴーになっちまうぜ

きれいごと好きなやつはいねがー  
じぶんを柵に上げるやつはいねがー

そんなやつあー  
偽善の魔物の仲間にされちまうぜ

教えたがりはいねがー  
上から目線はいねがー

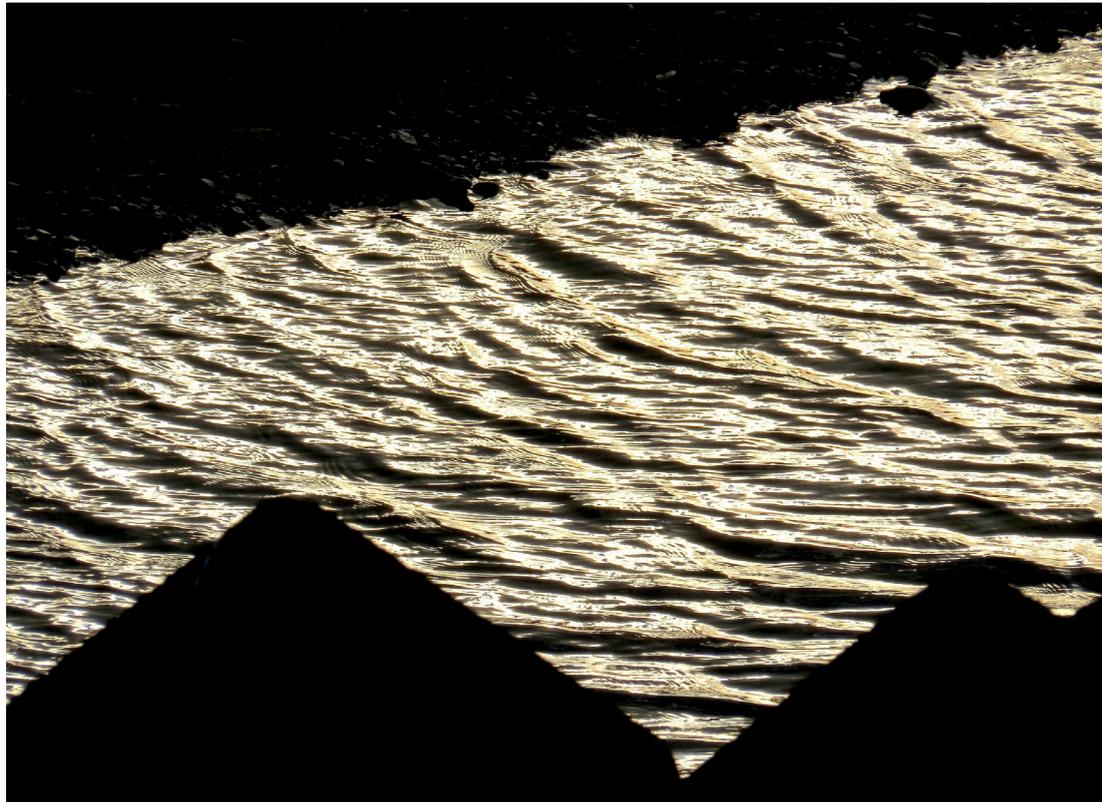
そんなやつあー  
お節介お化けに食われちまうぜ



※愛媛県伊予市双海町高野川・高野川神社にて

# photopos-1208

2017.12.27



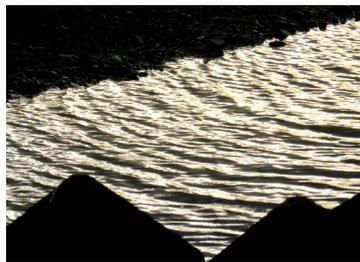
夕べには夕べの歌  
沈む陽に捧げる歌

水辺には水辺の歌  
寄せる歌に返す歌

道草には道草の歌  
心ぞぞろに歩く歌

徒然には徒然の歌  
口笛吹いて数え歌

遊戯には遊戯の歌  
逢魔が時の夢の歌



※愛媛県松山市・重信川河口にて

# photopos-1209

2017.12.28



黄金は  
沈黙の色

光の画布に記される  
永遠を象る文字たち

水の鏡に映される  
イマージュの戯れ

時よ  
止まれ  
しばし

沈黙のなかで  
生まれる詩のごとく

ひとりのなかで  
生まれる祈りのごとく

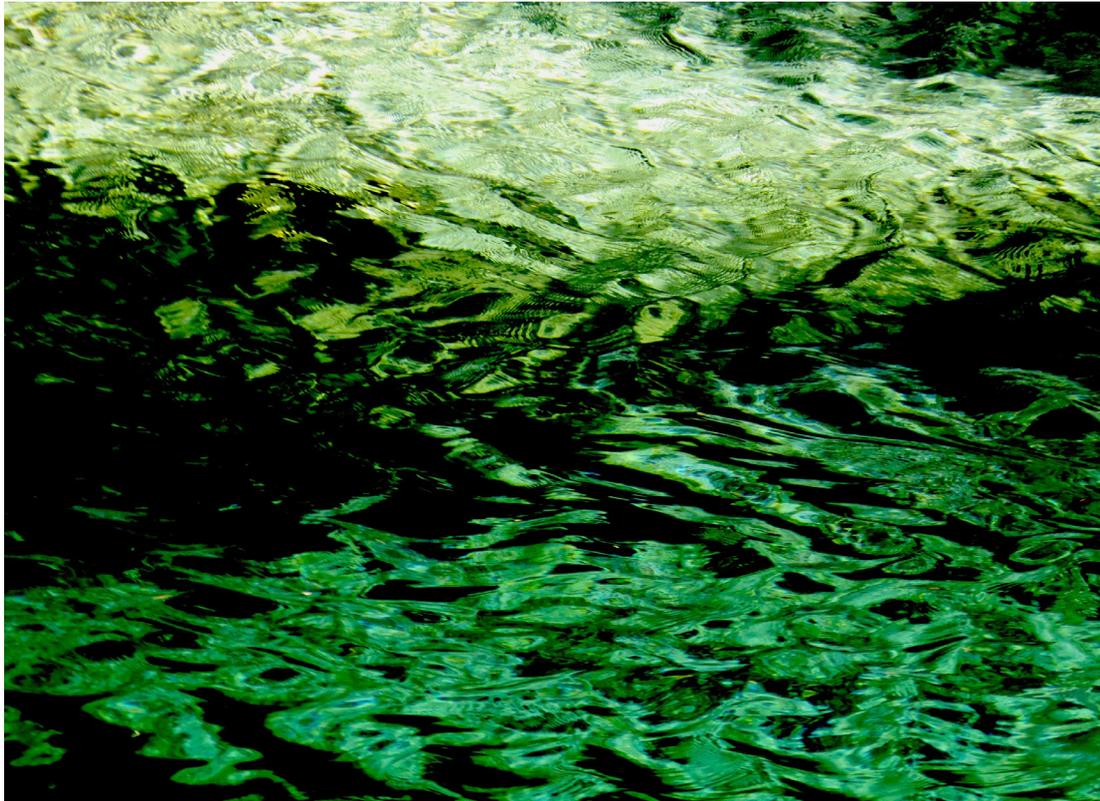
天地のあわいを包む  
秘かな光のヴェールのなかで



※愛媛県松山市・重信川河口にて

# photopos-1210

2017.12.29



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

忘れていた色を思い出すとき  
忘れていた言葉も甦る …

そんな夢を見ていたとき  
きみに出逢ったんだ

夜の闇のなかで  
きみは翼をゆっくりと広げ  
ぼくを包み込みながら  
その言葉を秘かに語り始める  
まるで歌うような声で

きみは大きな瞳を鏡のように光らせて  
忘れていたぼくの姿を映しだす …

今はもう  
その色もその言葉も  
思い出すことはできないけれど

そして  
きみの姿もその声も  
ましてぼくの姿も  
夢の彼方から甦ってはこないけれど

photopos-1211

2017.12.30



ことたまは訪れ  
ことたまは詠う

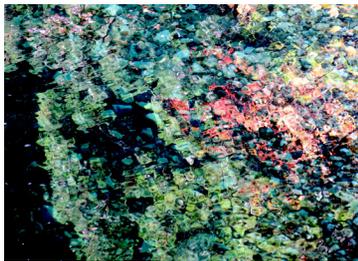
人のなかで  
天と地をつなぎ

巡り宿りて  
声となり文となる

声はかたちとなり  
文はこころとなり

頭をあらわし  
密を秘め

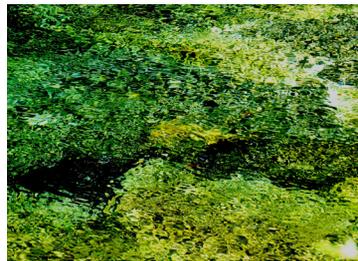
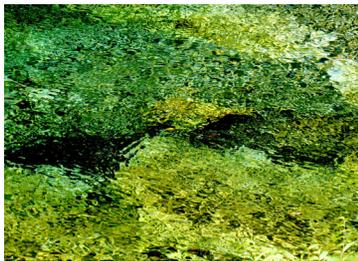
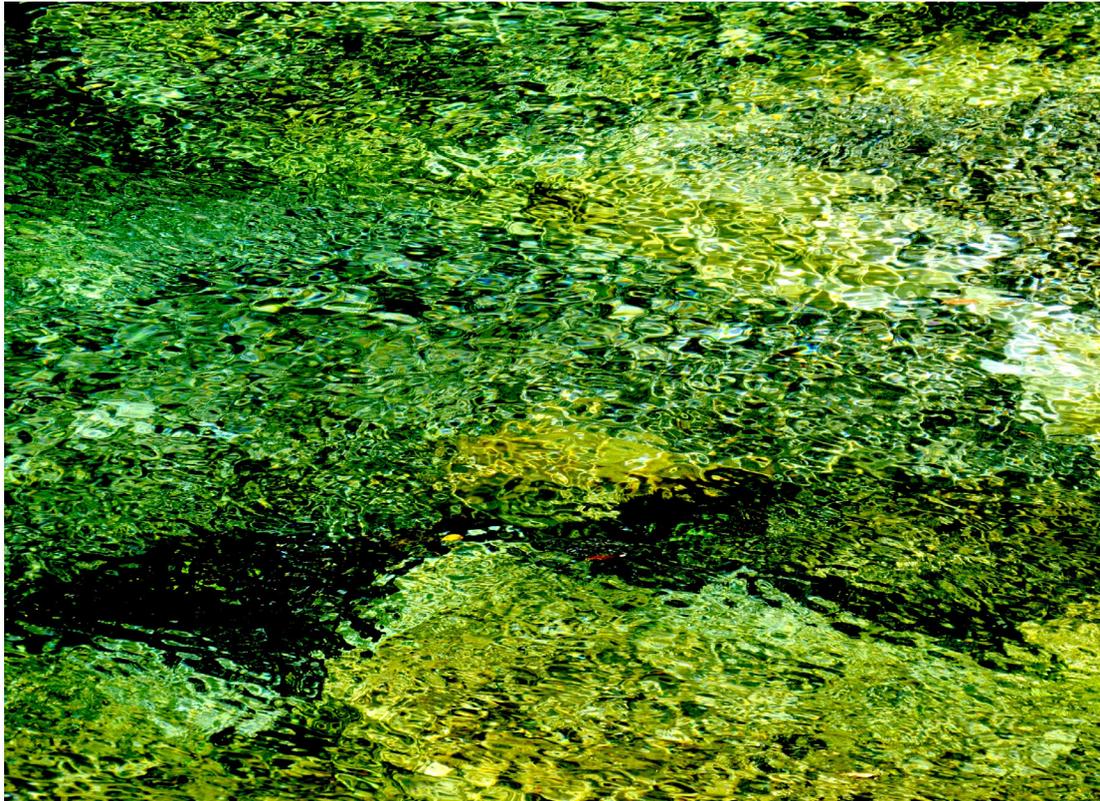
人はことたまを詠い  
人はことたまを舞う



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

# photopos-1212

2017.12.31



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

アルファがオメガと  
むすばれるとき  
すべての終わりは  
新たな始まりとなる

見えないかたちのなかで  
なにかが生まれようとするとき  
その気配に気づくためには  
特別な感官が必要となる

風に耳をすませるように  
火に祈りを捧げるように  
水に記憶を探すように  
地に身を委ねるように

見えないものを観るために  
聞こえないものを聴くために  
さわれないものにふれるために

私たちは  
感じることを超え  
知ることを超え  
考えることを超えてゆかねばならない

# photopos-1213

2018.1.1



一なるもの  
その無を映す鏡を求め

一は二となり  
二は三となり  
数はかたちとなり  
かたちはかたちを生み

光は生まれ  
そして放たれ  
光でないものは生まれ  
そして照らされ

我ははじまり  
汝ははじまり  
我と汝の交わりははじまり  
空なるものは回りはじめ

風は吹き  
火は燃え  
水は流れ  
地は育み

人は歩き  
人は歌い  
人は喜び  
人は苦しみ

そして  
人は愛し  
みずからの無を映す  
大なる鏡を求め

※愛媛県松山市・重信川河口にて

# photopos-1214

2018.1.2



はるかなものを  
はるかなものとして  
求めつつ遠ざけるのは  
祈りだろうか

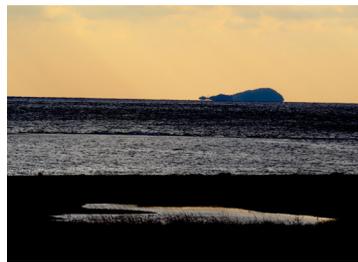
はるかなものを  
見えないままに  
信仰に変える処世だろうか

はるかなものは  
いまここに  
召還されねばならない  
私がいまここにいるために

見渡す限りの世界を  
無限への広がりとして  
見せているのは  
夢見る旅人の心だろうか

見えているものを  
見ないでいるための  
臆病者の逃避術だろうか

無限への広がり  
いまここに  
召還されねばならない  
私がいまここにいるために



※愛媛県松山市・重信川河口にて

# photopos-1215

2018.1.3



そらそら  
おそらが  
ゆめみるときは

おそらと  
いっしょに  
あそびます

ふるふる  
こころが  
ふるえるときは

こころと  
いっしょに  
たびします

ほろほろ  
からだか  
さみしいときは

からだと  
いっしょに  
おどります

るりるり  
ひかりが  
ときめくときは

ひかりと  
いっしょに  
うたいます



※松山市総合公園にて

# photopos-1216

2018.1.4



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

気がつく  
無限のなかにいた

光と闇は  
光と闇のまま  
交差し照らし合い

彼岸と此岸は  
彼岸と此岸のまま  
交差し照らし合い

天と地は  
天と地のまま  
交差し照らし合い

一と二は  
一と二のまま  
交差し照らし合い

点と円は  
点と円のまま  
交差し照らし合い

有と無は  
有と無のまま  
交差し照らし合い

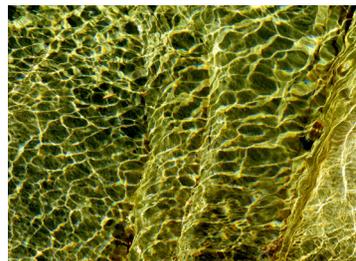
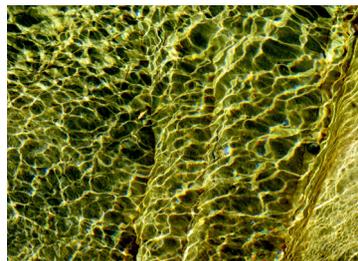
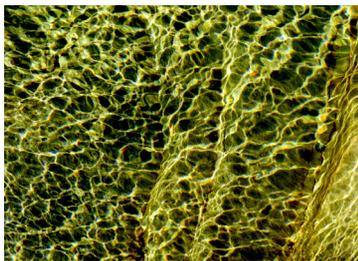
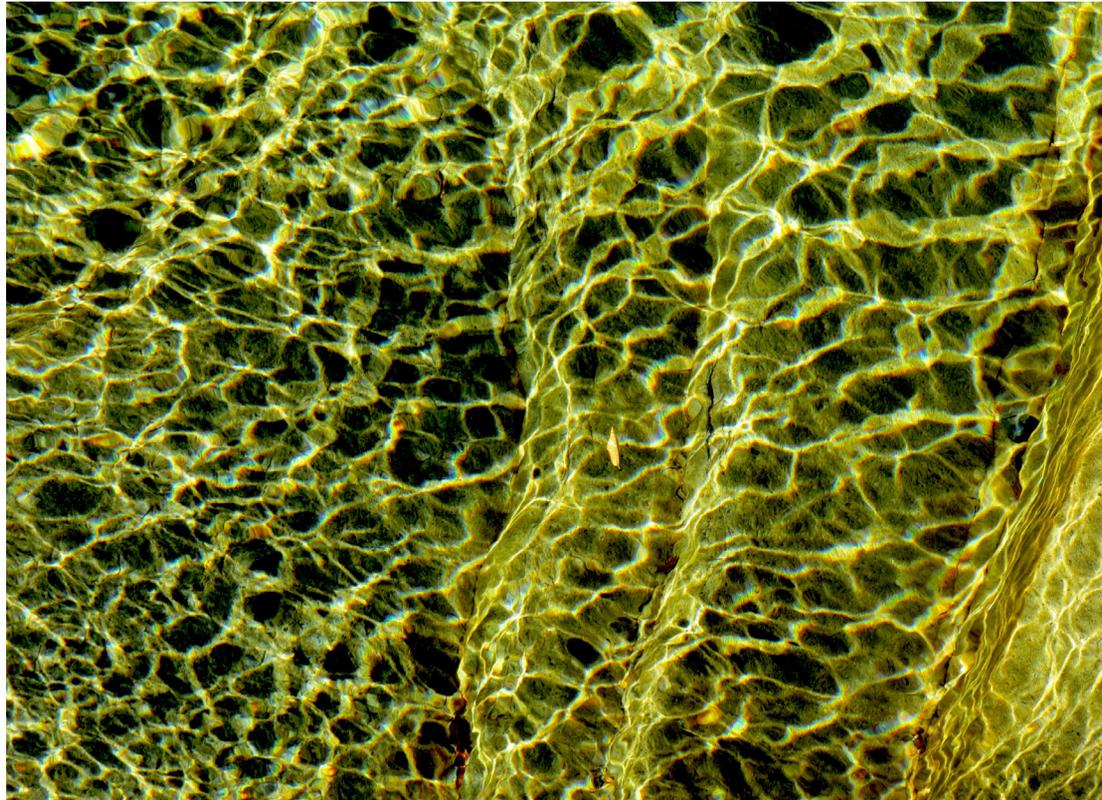
生と死は  
生と死のまま  
交差し照らし合い

ぼくときみは  
ぼくときみのまま  
交差し照らし合い

気がつく  
ぼくとぼくでないぼくは  
ぼくとぼくでないぼくのまま  
交差し照らし合っていたのだ

# photopos-1217

2018.1.5



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

ネットワークは広がってゆく  
けれども神経細胞のように  
ネットワークはただ信号を伝えるだけだ

何を伝えるか  
なぜ伝えるか  
その問いがあつてはじめて  
つながることが意味を持つ

コンピュータは考えない  
コンピュータは計算するだけだ  
それがどんなに複雑な演算回路で  
思考パターンをシミュレーションできるとしても

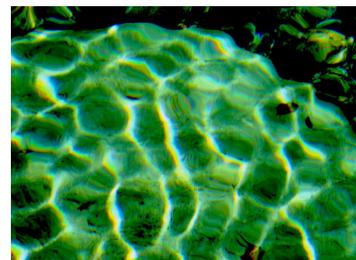
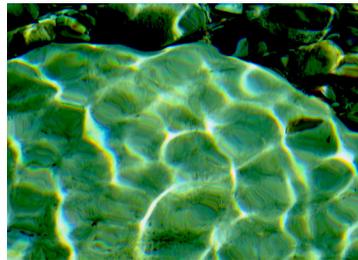
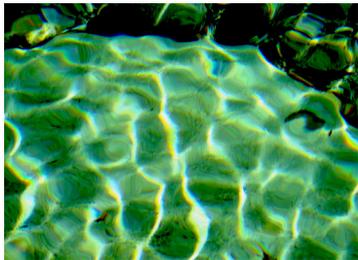
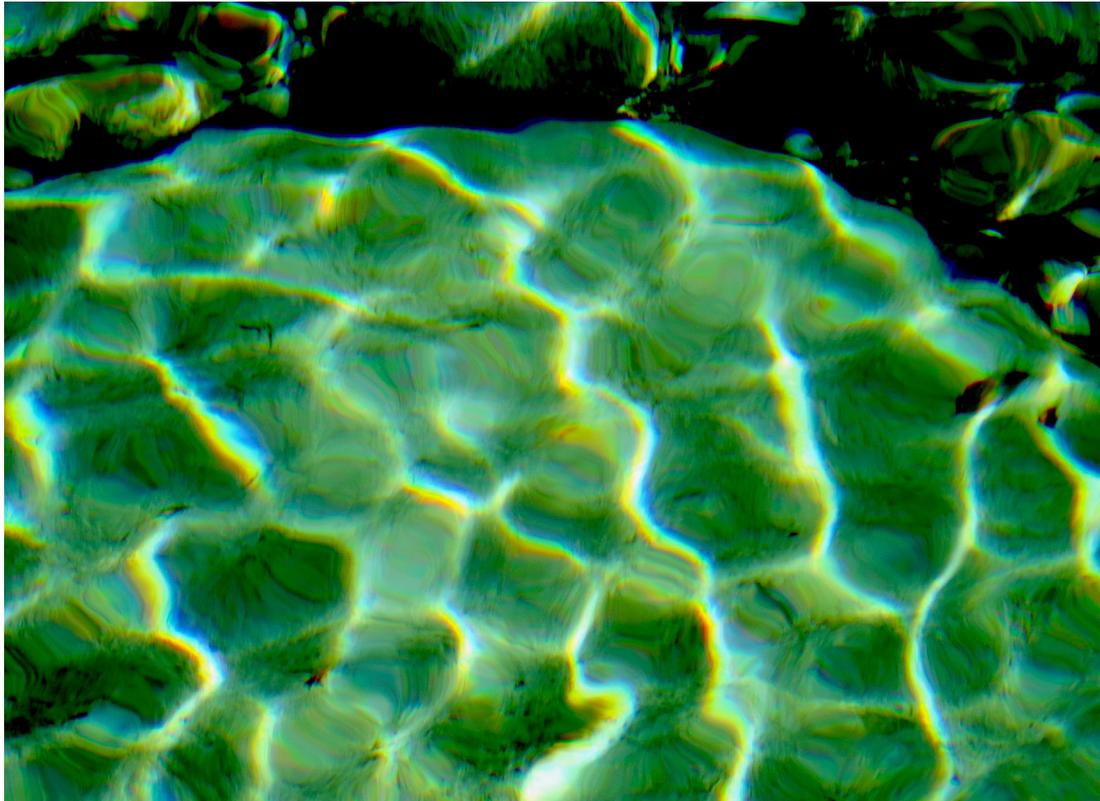
何を考えるか  
なぜ考えるか  
その問いがあつてはじめて  
思考は意味を持つ

眼は見ない  
眼は光を受ける器官だ  
耳は聞かない  
耳は音を伝える器官だ

何を見るか  
なぜ見るか  
何を聞くか  
なぜ聞くか  
その問いがあつてはじめて  
光は音は意味を持つ

# photopos-1218

2018.1.6



見ている  
ただ  
見ている

訪れを待つ光の器となって

待っている  
ただ  
待っている

何を待っているのかさえ知らず

考えている  
ただ  
考えている

だれでもないわたしになって

求めている  
ただ  
求めている

求めているものさえ知らぬまま

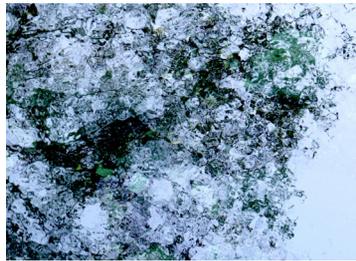
ここにいる  
ただ  
ここにいる

いまという永遠の持続のなかで

※愛媛県久万高原町・面河溪にて

# photopos-1219

2018.1.7



花なきゆえに  
花は咲き

紅葉なきゆえに  
紅葉は色づき

雪なきゆえに  
雪は積もり

風なきゆえに  
風は吹きすぎ

星なきゆえに  
星は輝き

時なきゆえに  
時は流れ

言葉なきゆえに  
言葉は生きられ

我なきゆえに  
我はあり

※愛媛県久万高原町・面河溪にて

# photopos-1220

2018.1.8



※愛媛県久万高原町・面河溪にて

悲しみのときは  
悲しみをじっと見つめる

その悲しみのなかから  
愛しみが生まれるまで

怒りのときは  
怒りをじっと見つめる

その荒ぶる心を燃やしている  
火種が姿を変えるまで

心閉ざしたときは  
閉ざされた心をじっと見つめる

その閉ざされた心のなかから  
静かに花の香りはじめるまで

空しきときは  
空しき心をじっと見つめる

空っぽの心の空が  
青い空となり  
そこに鳥の飛翔するまで

# photopos-1221

2018.1.9



私はどこにいるか  
夢のなかで私は私に問う

私は夢のなかにいる  
夢のなかで私は私に答える

夢から醒めると私はどこにいるか  
夢のなかで私は私に問う

私は現のなかにいる  
夢のなかで私は私に答える

私はどこにいるか  
現のなかで私は私に問う

私は現のなかにいる  
現のなかで私は私に答える

現から醒めると私はどこにいるか  
現のなかで私は私に問う



※愛媛県松山市・重信川河口にて

# photopos-1222

2018.1.10



※広島県・尾道市にて

世界を映す鏡には  
すべてのひとりの  
まんなか映っている

けれど  
ひとりのまんなかと  
もうひとりのまんなかは  
静かな孤独のなかでねじれている

ある冬の寒い午後  
ぼくがくしゃみをする  
それだけでも  
天と地の不思議は織られてゆくけれど  
それはもうひとりの不思議とは  
孤独にねじれているのだ

じぶんのまんなかは  
ひとのまんなかにはならない  
ひとのまんなかは  
じぶんのまんなかにはならない

だから  
もういいのだ  
そんなに飾らなくても  
もういいのだ  
そんなに自分を語らなくても  
それは孤独をもっと孤独にするだけだから

けれど不思議な偶然の必然で  
外が内になり内が外になり  
表が裏になり裏が表になるように  
ぼくのまんなかと  
もうひとりのまんなか  
交わることもあるのだ

ある冬の寒い午後  
ぼくのくしゃみが  
きみのまんなかで  
透明な波紋を投げかけるように

# photopos-1223

2018.1.11



フクロウは夕暮れに飛びたつが  
夕暮れの後には  
やがて朝の光が訪れる

朝に飛びたつのは  
新しい人でなければならない  
新しいワインには  
新しい皮袋が必要だからだ

スフィンクスは謎かける  
朝には四つ足 昼には二本足  
夜には三つ足で歩くものはと

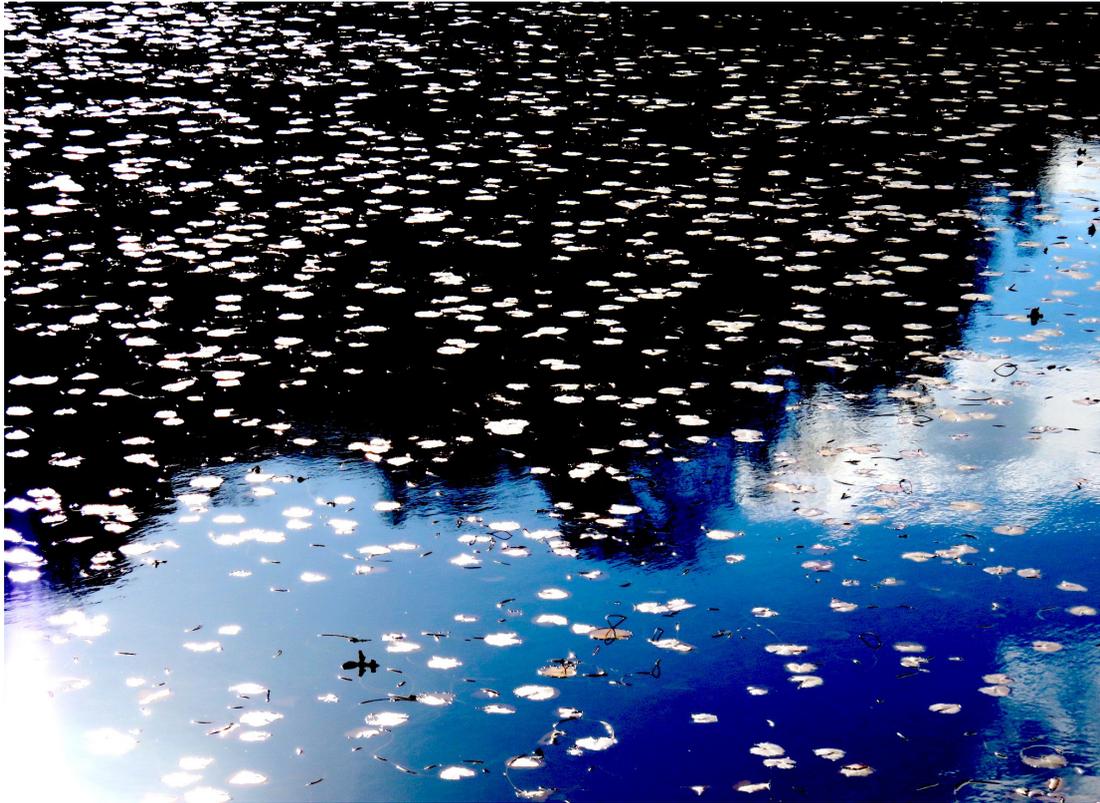
けれどそれだけが人の姿ではない  
夜の後にはやがて朝がくる  
訪れる朝に歩くことのできる  
新しい足を持たなければならない



※広島県尾道市瀬戸田町高根島にて

# photopos-1224

2018.1.12



我が身を映せ 水鏡

心の姿有り体に  
我が身映して舞い踊る

我が身祝うか 水鏡

心が花になるならば  
花は我が身に散りかかる

我が身憎いか 水鏡

心が鬼になるならば  
鬼は我が身を襲いくる

我が身独りの 水鏡

心寂しとなるならば  
寂しさ我が身を覆いゆく

我が身空しき 水鏡

心虚ろになるならば  
虚ろは我が身を蝕まん

我が身映すな 水鏡

心の姿有り体に  
我が身に見せてなんとする

我が身を映せ 水鏡

たえぬ我が身の切なさよ  
されど我が身の愛しさよ

※広島県・尾道市にて

# photopos-1225

2018.1.13



目覚めと眠りのあいだを生きる私と  
眠りと目覚めのあいだを生きる私と

現は夢をつくり夢は現を誘い  
私と私はメビウスの輪のように結ばれる

変わりつづける私と  
変わらない私と

光は影をつくり影は光を誘い  
私と私のあいだで私を見ている私がいる

過去へ還ろうとする私と  
過去を忘却する私と

時は記憶をつくり記憶は時を誘い  
時の深みを生きようとする私がいる



※松山市総合公園にて